

ヒメクロウミツバメ

Oceanodroma monorhis (Swinhoe)
ミズナギドリ目・ウミツバメ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

京都府沓島で繁殖しており、本県沖も生息地である可能性が高い。確実な記録としては1994年と2001年の保護例があり、そのほかに未確認の目撃記録が2件あるが、海上調査が不十分であるため、本県沖の生息実態は把握されていない。

種の特徴

全長19cm、全身くすんだ黒褐色で白色部はないが、翼の上面に淡色帯がある。尾羽の切れ込みは浅い。繁殖期の日中は、集団繁殖地の島を離れた海上でヒラリヒラリとチョウが舞うように飛び、水面近くの小魚、イカ類、エビ類等を水面の下りることなく、くわえ獲る。

分布

夏鳥として、東北～九州、伊豆諸島の島嶼で繁殖し、周辺の海域でみられる。本県沖は、京都府沓島で繁殖している個体群の採餌エリアになっていると推察される。

生息を脅かす要因

本県沖の生息状況はほとんど明らかになっていない。世界的にも繁殖地が限られている種であるため、本県沖の生息状況を調査する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、石川県野生動物保護対策調査委員会（2009）、京都府（2015）、中村・中村（1995）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○					○						

ヒメウ

Phalacrocorax pelagicus Pallas
カツオドリ目・ウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

生息可能メッシュにおける確認調査の出現率は0.97で、県内全域の海岸の岩礁地帯に生息し、生息数にも減少傾向がみられないが、国の選定種であることから生息状況に留意する必要がある。

種の特徴

全長73cm、日本産のウ類では最小種で、ほかのウ類よりも体と嘴が細い。冬羽では全身が黒く、青、紫、緑色の光沢がある。繁殖期には目の周りの露出部が赤くなる。休息時以外はほとんど海上で生活し、巧みに潜水して、魚類やエビ・カニ等の甲殻類を捕食する。

分布

北海道、本州北部、九州北部の沿岸で繁殖し、冬季には九州以北に生息する。本県では、冬鳥として越前海岸～若狭湾の岩礁地に渡来し、ウミウと共に休息していることが多い。

生息を脅かす要因

海洋環境の悪化による餌場環境の消失や船舶から流れる油汚染の影響等が挙げられる。比較的警戒心が強いので、人の存在による影響も考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、高野（2015）、大西ら（2014）、中村・中村（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○	○	○	○			○						○

クイナ

Rallus aquaticus Linnaeus
ツル目・クイナ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

第1版では県域準絶滅危惧種に選定したが、本種は半夜行性であり湿地の草むらに潜む目撃困難種であるため、評価するのに必要な情報が不足していると判断され、今後の動向に注目していく必要がある。

種の特徴

全長29cmで、頭～上面にかけてはオリーブ褐色で黒い縦斑がある。腹と脇には白色と黒色の横斑がある。下嘴は年中赤い。すぐに身を隠せる草で覆われた湿地、河畔、湖沼畔で、カエル類や節足動物、イネ科やダテ科の種子を食べる。越冬地でも一定の縄張りを持つ。

分布

東北地方～北海道で繁殖し、主に中部地方以南では冬鳥である。県内の湖沼、河川、ヨシ原で主に秋～冬に確認されている。5、6月の記録もあるが、繁殖は確認されていない。

生息を脅かす要因

河川や湖沼の護岸工事による湿地環境の減少が考えられる。河川敷や湖沼の岸辺にあるヨシ原等の湿地環境の保全再生と、センサーカメラや音源等を導入した調査を行い、生息状況を把握することが必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○					○		○				○